

**2019 年度
一般社団法人 CIEC 定時社員総会**

議 案 書

2019 年 8 月 7 日(水)
甲南大学岡本キャンパス
(〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9-1)

【2019 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 議案】

第 1 号議案. 2018 年度事業報告と 2019 年度事業計画承認の件	1
第 2 号議案. 2018 年度決算承認の件	
・財政報告	4
・貸借対照表	6
・損益計算書	7
・計算書類の注記表.....	8
・附属明細書	9
・監査報告書	10
第 3 号議案. 2018 年度収支差額処分承認の件	11
第 4 号議案. 2019 年度予算承認の件	12

【資料】

資料 1. 2018 年度活動報告と 2019 年度活動方針	15
・専門委員会	
・部会	
・支部	
資料 2. CIEC 活動報告.....	24

2019年度一般社団法人CIEC定時社員総会議案書

議案1. 2018年度事業報告と2019年度事業計画承認の件

1996年7月に設立されたCIECは、2013年6月から一般社団法人CIECとして、設立以来の目的を引き継ぎながらこの6年間活動してきました。本議案では、2018年度の事業報告と2019年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会等の活動報告は、それぞれの委員会や部会報告等にゆだね、ここでは全体に関わる2018年度の取り組みの要点と2019年度事業方針について記します。

1. 学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIECは2013年6月に一般社団法人CIEC設立総会を開催し、一般社団法人として活動を続けてまいりました。ここ数年の学校教育を取り巻く環境の変化は大きく、学習指導要領改訂に伴い、主体的・対話的で深い学びがより一層重視され、新に取り組むことやこれからも重視することとして、プログラミング教育、外国語教育の4技能、道徳教育、言語能力、理数教育、体験活動等が示され、カリキュラム・マネジメント確立による学びの質の向上も重要な事項とされております。高大接続改革では、小学校段階から一貫して「学力の3要素」を育成し、大学教育でさらに伸長を図るため、2021年には「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」を一層重視する大学入学共通テストが実施されるなど、新たな動きもみられます。高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」の運用も始まり、ICTを活用して「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的で総合的に評価するための基盤が整いつつあります。

今こそ、CIECが長年取り組んできたICT利用教育に関わる成果を社会に発信し、その評価を受けながらさらに発展させていく時期に来ていると考えられます。そこで本年度は、委員会、部会、支部の連携をさらに強化し、活動を活発化させていきたいと考えています。そのことにより、ICT利用教育に関わる情報交換・情報発信の場としてのCIECの魅力を多くの教育関係者にアピールし、個人・団体会員の増加を目指します。

2. PCカンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2018PCカンファレンス」は、2018年8月24日、25日、26日に熊本大学で全国大学生協連との共催のもと787名の参加で開催されました。全体テーマは「ひらめき ときめき はばたき」です。AI時代において人間とは何か、人の学びとは何かを考え、様々な学びにおいて、また人との出会いや交流での「ひらめき」、それを実現し、社会が変わっていくことを想像して「ときめき」、それをモチベーションとして様々なことに挑戦して「はばたき」を人にしかできないこと、人ならではのことでテーマに取り上げました。

また、このテーマには、熊本大学のコミュニケーションワードである「創造する森・挑戦する炎」、および震災復興における苦境の中で「ひらめき」、復興しさらなる発展をしていく熊本を想像して「ときめき」、新たな熊本を目指して「はばたき」、創造的復興に向かっている姿を見ていただきたいという意味も重ねています。

さらに、九州ブロックでは、継続して九州PCカンファレンスを開催しており、熊本大学生協だけでなく、九州の各大学生協が協力した「オール九州」体制で実施する試みも含めたものとなりました。プレカンファレンス「小中校の授業におけるタブレット活用」、基調講演「CPSとSDGs：科学技術の加速度的進展とグローバルな制度形成が近未来の社会を激変させる」、「『AI時代』のはばたきとまばたき」に続き、「AI、IoTとビックデータが創るこれからの学び」、「オープン・エデュケーションの挑戦—MERLOTとの協働そしてCIEC活動のさらなる活性化へ—」の2つのシンポジウムが開催されました。分科会では、120本（口頭88本、ポスター32本）の発表がありました。

「2019PCカンファレンス」は、甲南大学岡本キャンパスにて8月6日、7日、8日に開催されます。全体テーマは、「挑む ぶつかる 乗り越える」です。2019PCカンファレンスは、平生鈞三郎によって創立されてから2019年で100周年を迎える甲南学園の甲南大学岡本キャンパスでの開催です。今回からの新たな取り組みとして、これまで以上にPCカンファレンスに対する興味、関心を喚起し、参加を訴求するため、リーフレットを、開催校実行委員長の挨拶、基調講演

やシンポジウム等を中心に掲載し、配布しやすいものとししました。したがって、従来の分科会報告の概要を含めた詳しいプログラムを、Web サイトへの掲載による広報とししました。このことにより、分科会の申し込み期限を5/15(水)へと大幅に後ろへ移動することができ、申し込み期間を長く設定できるだけでなく、新学期の異動等にも対応できたのではないかと考えております。さらに、カンファレンス期間中の3日間、学会託児所を設置することとししました。

『2019PCCは、「挑む ぶつかる 乗り越える」をテーマに、スポーツ科学に着目します。スポーツは、目標に向かって「挑む」ところから始まります。挑めば、いつかは壁に「ぶつかり」ます。競技者の努力、監督やコーチの助力、チームメイトとの切磋琢磨や支え合いなどをもって、やがて壁を「乗り越え」ます。その先には次の挑戦が待っています。教育や学習もスポーツと同様ではないでしょうか。2019PCCでは、参加者の皆様の挑戦がもたらしたものを共有し、新しい課題にぶつかり、乗り越えていきます。どうか、2019PCCにご期待ください。』（開催概要より一部転載）。

3. みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会／部会／支部の活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の4つが理事会のもとに置かれています。研究委員会は、自ら CIEC 研究会の企画実施を担当するとともに、1 部会等が開催する研究会の調整・管理を行います。2018年度は、CIEC 春季研究会 2019 が実施され、「CIEC 研究会報告集 Vol.10」を刊行しました。また、春季研究会をさらに充実させるため、その運営組織の在り方や運営、必要な予算化等について検討をしております。会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ&エデュケーション』の編集を担当し45号と46号を刊行しました。また、会誌編集に関わる作業の情報化を進め、会誌編集の進捗管理をオンラインで行う投稿審査システムの導入を予定しております。広報・ウェブ委員会は刷新された CIEC のホームページを通して様々な情報発信を行いました。国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、研究会の開催等を通じて引き続き情報提供をすすめており、今年度は、米国の Duke 大学を訪問し、教育に先進的に ICT が果たしている役割を、参加者および CIEC 会員の今後の研究活動に広く還元できるように会誌に報告を行いました。

部会は、会員の自発的な組織として始まり、小中高部会、生協職員部会、今年度新たに誕生したオープン・エデュケーション部会が研究活動を展開しています。小中高部会は関東、関西、北海道の3地区に拠点を拡大して活動をすすめ、PCカンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、CIEC 研究会を2回実施しました。また2019年度7月の実施も確定しております。オープン・エデュケーション部会は、小中高部会と共催の研究会の他、独自企画の CIEC 研究会を実施しました。生協職員部会は、学生の大学生協の場を通じた学びに焦点を当て PC カンファレンスでセミナーを企画開催しました。

支部は CIEC の地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の2つが活動しております。2018年度の活動として、九州支部の九州 PC カンファレンスは、熊本大学での2018PCカンファレンスとして開催し、北海道支部では、11月にPCカンファレンス北海道（北翔大学）を開催しました。2019年度は、10月にPCカンファレンス北海道（酪農学園大学）、九州PCカンファレンス（佐賀大学）の開催を予定しております。

4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度744名(2019年4月)となりました。個人会員が1000名規模に達するよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PCカンファレンスや研究会などへの未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また、団体会員は82団体(2019年4月)であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設など、団体会員とのコラボレーションを追求します。

5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっており、編集委員会によって査読制度も確実に運営され、年2回の会誌発行を順調にすすめてきました。最新号を除く会誌は、JSTAGEで公開されており、

最新号も発行の6か月後には公開されます。なお、第46号から、投稿される論文等の多様化と質向上を図るために、投稿区分を「研究論文」「実践論文」および「研究ノート」「実践報告」に再編しました。

また、ニューズレターについては完全Web化して会員への情報提供をすすめています。CIECホームページも内容の更新を実施し、新ホームページにおいては、今まで以上に各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

さらに、新たな試みとして、CIECについて社会に発信すること、多様な会員の研究、実践の広がりが見える化等のために、会長発信企画を行い、9月に横川会誌編集委員長との対談を会誌45号(12/1発行)に掲載し、4月に熊坂前CIEC会長との対談を、Webページの「Special」に掲載いたしました。

6. 財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、団体会員の退会が続いており、一般会員数も頭打ちの状態となっております。引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。教育に関心のあるさまざまな個人や団体、企業に会員になってもらい、CIECの場を通じて学び、交流することで、個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進などで収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。

社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図り、CIECの活動収支については厳密な運用管理と定期の会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。

日常的なCIEC活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2019年度においても引き続き現行の体制を維持し、法人としての事務局活動を進めます。

以上

CIEC2018 年度財政報告

〔概況〕

2018 年度決算は 22,379 円の黒字となりました。大きくは 2018PCC が熊本で開催されたため例年開催の九州 PCC の単独開催の費用が押さえられたこと、3 役会議費用をすべて理事会や PCC 実行委員会と同日にし費用を押さえたことがあります。

(文中の金額は原則として千円以下切り捨て、詳しくは損益計算書をご覧ください)

〔経常損益の部〕

I. 〔経常収益〕

1. 会費収益 1,138 万円／予算 1,210 万円

- ・ 個人会員会費収入は 418 万円で予算対比 22 万円の減 (-5.0%)、団体会員会費収入は 719 万円で予算対比 51 万円の減 (-7%) となりました。

<会員状況>	2018 年 4 月 1 日	2019 年 3 月 31 日	2019 年 4 月 1 日
個人会員	755	773	744
団体会員	84	82	82

2. 財務収益 892 円／予算 2 千円

- ・ 受取利息 892 円

II. 〔経常費用〕

1. 事業費用 734 万円／予算 779 万円

(1) 会議費用 233 万円／予算 225 万円

- ・ 会議の開催数は昨年と変わりませんが 2018 年度から委員が交代し、比較的交通費の多い委員が増えたため増加しております。(遠方の委員には早割運賃やパック料金の利用など協力をいただいております。)

(2) 会誌発行費用 325 万円／予算 250 万円

- ・ Vol. 45, Vol. 46 を発行しました。投稿が多くページ数が増えたため費用が超過しました。

(3) 広報費用 12 万円／予算 15 万円

- ・ 2017 年度活動紹介パネルを作成しました。
- ・ CIEC ウェブサイトの会長インタビュー、Special 記事の費用を支出しました。

(4) 研究会費用 47 万円／予算 60 万円

- ・ 2018 年度は春季研究会及び第 117 回, 118 回, 119 回の研究会を開催しました。
- ・ 春季研究会では CIEC 研究会報告集 vol. 10 を発行しました。発行費 19 万円に対し主に参加者が購入する報告集販売収入が 5 万円で差額 14 万円は CIEC 負担となっております。

(5) 調査費 5 万円／予算 5 万円

- ・ 北海道支部により教科「情報」の調査が行われ、その結果は PCC 北海道で発表されたほか、協力各大学で有効活用されています。

(6) 事業活動費用 6 万円／予算 42 万円

- ・ 電子証明書費用です。
- ・ 3 役会議は今期、理事会や PC カンファレンス実行委員会とあわせて開催したため費用発生しておりません。

(7) 支部活動援助金 25 万円／予算 61 万円

- ・北海道支部 25 万円の実績です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。
- ・九州支部 36 万円は、今期熊本大で PCC が開催、九州 PCC の単独開催がないため全額返金されました。

(8) 部会活動援助金 79 万円／予算 110 万円

- ・小中高部会 49 万円、生協職員部会 0 万円、オープン・エデュケーション研究部会 30 万円の実績です。3 部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(9) 学会表彰事業費 3 万円／予算 10 万円

- ・2018 年度は学会賞 1 件の実績です。

2. 管理費用 400 万円／予算 431 万円

(1) ネットワーク運営費 12 万円／予算 15 万円

- ・保守管理業者委託費，サーバー更新料，ドメイン名登録更新料(お名前.COM/日本レジストリーサービス) の費用です。

(2) 事務局通信費 19 万円／予算 25 万円

(3) 事務局業務委託費 300 万円／予算 300 万円

(4) 事務用品費 30 万円／予算 38 万円

(5) 備品購入費 0 円／予算 10 万円

(6) 管理委託費 16 万円／予算 20 万円

- ・登記費用、会計システム費用、会計顧問料で、16 万円です。

(7) 雑費 23 万円／予算 22 万円

- ・個人情報取扱事業者保険料，書籍 JAN コード更新料，振込や自動引き落としなどの各種手数料が主です。

(8) 予備費 0 円／予算 1 万円

(9) 租税公課 0 円／予算 2 千円

〔経常外損益の部〕

III. 〔経常外収益〕

- ・雑収入 4 万円／予算 0 円
会誌売上および春季研究会参加費です。

IV. 〔法人税等〕

7 万円／予算 7 万円

- ・法人住民税 7 万円を納めました。

V. 〔当期利益金〕

7 万円の赤字予算に対し 7 千円の赤字となりました。

以上

計 算 書 類

第 1 貸借対照表

貸 借 対 照 表
2019年6月30日現在

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	19,032,288	流動負債	6,988,441
現金及び預金	18,938,188	未払金	188,441
未収金	94,100	前受金	6,800,000
		負債合計	6,988,441
		(純資産の部)	
		その他	12,043,847
		正味財産	12,043,847
		繰越利益剰余金	12,043,847
		純資産合計	12,043,847
資産合計	19,032,288	負債・純資産合計	19,032,288

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型(改訂版)」(2015年5月7日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第2 損益計算書

損 益 計 算 書

(自2018年7月1日 至2019年6月30日)

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,185,000	
2) 団体会員会費収入	7,190,000	
	11,375,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	892	
	892	11,375,892
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	2,326,964	
2) 会誌発行費用	3,246,548	
3) 広報費用	120,894	
4) 研究会費用	468,929	
5) 調査費用	49,200	
6) 事業活動費用	61,560	
7) 支部活動援助金	247,198	
8) 部会活動援助金	792,094	
9) 学会表彰事業費用	30,000	
	7,343,387	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	123,022	
2) 事務局通信費	191,592	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	304,773	
5) 管理委託費	159,610	
6) 雑費	231,129	
	4,010,126	11,353,513
経常利益		22,379
(経常外損益の部)		
III 経常外収益		
1 雑収入	60,528	40,486
IV 税引前当期純利益		62,865
V 法人税等	70,000	70,000
VI 当期損失		7,135

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型(改訂版)」(2015年5月7日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第3 計算書類の注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

②資産の評価基準及び評価方法

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

2. 損益計算書に関する注記

(1) 法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

3. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかっています。

未収金は、回収期間は1年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2019年6月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定方法については(注1)を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
①現金預金	18,938,188	18,938,188	-
資産計	18,938,188	18,938,188	-
③前受金	6,800,000	6,800,000	-
負債計	6,800,000	6,800,000	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

②前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

附属明細書（計算書類関係）

主な資産および負債の明細

(1) 現金預金 (単位:円)

内 訳	金 額
現金	931,646
当座預金 ゆうちょ銀行	3,368,797
普通預金 りそな銀行	2,519,534
普通預金 中央労働金庫	2,118,211
定期預金 中央労働金庫	10,000,000
合 計	18,938,188

(2) 前受金

内 訳	金 額
次年度個人会員会費	3,240,000
次年度団体会員会費	3,560,000
合 計	6,800,000

2019年7月14日

監査報告

一般社団法人 CIEC（コンピューター利用教育学会）

監事 板倉 隆夫

監事 宿久 洋

監事 柳田 章



第7期事業年度（2018年7月1日～2019年6月30日）の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務の執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、各監事は調査を行い、監査を実施しました。

具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録等を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について報告を受け、また、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

- 1) 事業報告は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- 2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 3) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産および損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3. 追記情報

ありません。

以上

2018年度利益金処分案

I 当期末処分利益金	<u>12,043,837 円</u>
II 次年度繰越利益金	<u>12,043,837 円</u>

上記のとおり、2018年度利益金は次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 C I E C (コンピュータ利用教育学会)

会 長 理 事 若 林 靖 永

2019年度予算計画

I. [経常収益について] 1,210万円

1. 会費収益 総額 1,210万円

- ・ 個人会員会費収入は 440 万円の計画とし、会員の新規加入を促進します。昨年実績に加え、一般会員ベースで 50 名の追加を目指します。
- ・ 団体会員会費収入は 770 万円の計画として、団体会員の新規加入を推進します。昨年実績に加え、団体会費 17 口増を目指します。
- ・ PC カンファレンスや研究会などを通じて会員獲得を目指します。
- ・ 会員獲得について計画化と組織的取り組みを図ります。

2. 財務収益

- ・ 受取利息で 2 千円を計上します。

II. [経常費用について] 1,240万円

1. 事業費用 総額 809万円

1) 会議費用 165万円 (昨年度の 225 万円から 60 万円を削減した予算とします。)

- ・ 総会費用は、20 万円を計上します。
- ・ 理事会は、その一部をオンライン会議で行うことにより、昨年度より -50 万円の 60 万円を計上します。
- ・ 広報・ウェブ委員会は申請に基づき、昨年度より -10 万円の 20 万円を計上します。各委員会、部会、支部の WEB 担当者の会議参加を呼びかけます。
- ・ 研究委員会は 20 万円を計上します。
- ・ 国際活動委員会は 10 万円を計上します。
- ・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 35 万円を計上します。

2) 会誌発行費用 341万円 (昨年度の 250 万円からオンライン投稿システムの費用として 91 万円を組み入れた予算とします。)

- ・ 12 月の 47 号、6 月の 48 号発行費用として 245 万円を計上します。取材・送料込。
- ・ JSTAGE への投稿デジタルデータ作成費用 5 万円を計上します。
- ・ オンライン投稿システム費用として 91 万円計上します。内訳は 648,000 円 (初期設定費用) + 129,600 円 (年間サポート料) + 132,400 円 (利用料@4000 円 X30 本程度) です。

3) 広報費用 30万円

- ・ リニューアルするリーフレット発行費用として 10 万円、2018 年度活動紹介のパネル作成費用として 4 万円を計上します。
- ・ HP 構築運用費として 16 万円を計上します。

4) 研究会費用 総額では 60 万円

- ・ 研究会費用を 50 万円計上します。
- ・ 研究会報告集費用は 10 万円を計上します。

5) 調査費用 5万円

- ・ 北海道支部の教科「情報」調査のための費用を 5 万円計上します。

6) 事業活動費用 27万円

- ・ 三役会議は、15 万円計上します。通常の 3 役会議は理事会、PCC 実行委員会と同日開催にし、臨時開催 1 回を計上します。
- ・ 諸会費等は、2 万円を計上します。
- ・ 事業委託費は 10 万円を計上します。

7) 支部活動援助金 61 万円

- ・支部活動を保障する予算を61万円計上します。北海道支部25万円、九州支部36万円です。支部では地域を単位とした事業（地域PCC、研究会など）を展開しCIEC会員の参加の「場」を広げます。

8) 部会活動援助金 110 万円

- ・部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を110万円計上します。小中高部会60万円、オープン・エデュケーション部会35万円、生協職員部会15万円です。

9) 学会表彰事業費用 10 万円

10) 教育出版費用 0 万円

- ・以前抜き刷り費用を別に計上しておりましたが現在は受取金額と相殺のため計上しません。

11) 周年事業費用 0 万円

- ・今期は計上いたしません。

2. 管理費用 総額 431 万円

1) ネットワーク運営費 15 万円

- ・サーバ更新料など。

2) 事務局通信費 25 万円

3) 事務局業務委託費 300 万円

4) 事務用品費 38 万円

5) 備品購入費 10 万円

6) 管理委託費 20 万円

- ・法人会計の税務顧問料およびシステム運用費用として20万円を計上します。

7) 雑費 22 万円

- ・振込、自動引き落とし、各種発行手数料などの費用として22万円を計上します。

8) 予備費 1 万円

9) 租税公課 2 千円

以上

一般社団法人CIEC2019年度予算案

(単位：円)

科 目	金額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,400,000	
2) 団体会員会費収入	7,700,000	
	12,100,000	
2 財務収益	2,000	
1) 受取利息	2,000	12,102,000
I I 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	1,650,000	
2) 会誌発行費用	3,410,000	
3) 広報費用	300,000	
4) 研究会費用	600,000	
5) 調査費用	50,000	
6) 事業活動費用	270,000	
7) 支部活動援助金	610,000	
8) 部会活動援助金	1,100,000	
9) 学会表彰事業費用	100,000	
10) 教育出版費用	0	
11) 周年事業費用	0	
	8,090,000	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	150,000	
2) 事務局通信費	250,000	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	380,000	
5) 備品購入費	100,000	
6) 管理委託費	200,000	
7) 雑費	220,000	
8) 予備費	10,000	
9) 租税公課	2,000	
	4,312,000	12,402,000
3 財務費用	0	
1) 支払利息	0	
		300,000
経常損失金		300,000

資料1：専門委員会，部会，支部2018年度活動報告と2019年度活動方針

※敬称略にて作成しております。

会誌編集委員会

1. 2018年度活動報告

- (1) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」45号（2018.12.1）の発行
 - ・INTERVIEW「新会長に聞く CIEC—過去、現在、そして未来」
若林靖永さん（CIEC 会長／京都大学 経営管理大学院経営研究センター長）に聞く／横川博一
 - ・特集「AI時代における教育と学習について考える」：6本／特集担当編集委員：中村泰右之
 - ・2018PCカンファレンス報告「ひらめき ときめき はばたき」
 - ・事例研究：9本／論文：5本／ソフトウェアレビュー：1本／本の紹介
 - ・一般投稿（特集，私の意見，報告，本の紹介を除く）25本（採択：15本，不採択：10本）
- (2) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」46号（2019.6.1）の発行
 - ・INTERVIEW「分身ロボット OriHime が語るもの」
吉藤健太郎さん（株式会社オリエント研究所代表取締役）に聞く／横川博一・村上正行
 - ・特集「ロボットを活用した教育実践と可能性」：4本／特集担当編集委員：村上正行
 - ・事例研究：2本／研究論文2本／実践論文：2本／実践報告3本／報告：1本／本の紹介
 - ・参考：一般投稿（特集，報告，本の紹介を除く）15本（採択：10本，不採択：5本）
- (3) 会誌編集委員会を、以下の日程（会場）で開催しました。
 - 第74回：2018年8月24日（熊本大学）
 - 第75回：2018年10月28日（杉並大学生協会館）
 - 第76回：2019年4月7日（杉並大学生協会館）
- (4) 2018PCカンファレンスで会誌編集委員会企画セミナー「CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするために—学会のさらなる発展に資する会誌を目指して—」パネリスト：中村泰之（名古屋大学），籠谷和弘（関東学院大学），浅野純一（岡山理科大学），松浦執（東京学芸大学）を開催しました。

2. 2019年度活動方針

- (1) 会誌『コンピュータ&エデュケーション』47号および48号を刊行します。昨年度に引き続き『コンピュータ&エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指します。また、「本の紹介」については、従来と同様に理事会メンバーの積極的な投稿をお願いします。
- (2) 会誌のさらなる質向上を図るため、会誌第46号（2019年6月刊行）から改正した会誌投稿規定について、投稿状況，査読プロセスなどの観点から検証を開始します。
- (3) 以前から導入を検討してまいりましたオンライン投稿・査読システム Editorial Manager の導入決定を受けて、2019年度はシステムに係る業者との打合せ・試行を行い、会誌第49号（2020年3月1日受付開始，2020年12月発行）から本格運用を実施する予定です。
- (4) 巻頭インタビューについては、これまでと同様に CIEC 団体会員をはじめ、団体会員外企業等にも積極的にインタビューを依頼し、CIEC への理解を深めることを目指します。また、会誌の特集に関連するテーマ・トピックも考慮しながら、各種ソフトウェア・システム等を有効に活用している実績のある個人についても、インタビューの対象としていきます。
- (5) 会誌編集委員会を年3回程度開催する予定です。
- (6) 団体会員の協力の下、会誌編集委員会主催もしくは他部会と研究会の共催について検討します。
- (7) 学会賞選考委員会に会誌編集委員会として協力します。
- (8) 2019PCカンファレンスで会誌編集委員会企画セミナー「CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション』に採択されるために—新しい投稿カテゴリーが期待するもの—」パネリスト：横川博一（神戸大学），武沢護（早稲田大学大学院・高等学院），村上正行（大阪大学），寺尾敦（青山学院大学）を開催します。

広報・ウェブ委員会

1. 2018年度活動報告

広報・ウェブ委員会は、CIEC の広報全般，特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供，社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2018年度は、当初に定めた3つ活動方針に従って、以下の通り活動しました。

(1) 公式 SNS の開設と運用

2018年6月に Twitter および Facebook に公式アカウント@ciecinfo を開設し，8月に正式運用を開始しま

した。2019年5月30日時点のTwitterのフォロワー数は89、Facebookのフォロワー数は84です。投稿内容は主に、学会サイトのSpecial記事のシェア、研究会やPCカンファレンスの開催情報の提供を行っています。特に2018PCカンファレンスについては、開催中のレポートに加え、熊本市内の観光案内なども行いました。2019PCカンファレンスについても、分科会論文、イブニングセッション、教育・ITフェアの募集案内や締切のリマインドなどを行っています。公式SNSの開設によって、CIECの公的な情報をより多くの会員や非会員に届けることができるようになったことに加え、学会の存在を身近に感じられるソフトな情報の提供も可能になりました。

(2) 委員会のガバナンス強化とCIEC内連携

公式SNSのTwitterとFacebookは、それぞれ担当委員が責任をもって運営しています。また、2018年度の委員改選にあたって、本委員会以外の3つの専門委員会（研究委員会、会誌編集委員会、国際活動委員会）から最低1名は委員を兼任してもらうことにしました。小中高部会、生協職員部会の世話人や北海道支部、九州支部のメンバーも委員に加わってもらっています。委員長・副委員長を含めるとCIEC理事が7名含まれる委員会となり、CIEC内の連携が強化され、CIECの広報全般を担える体制が整いました。2019PCカンファレンスに向けても広報力を高めるべく、副委員長と委員の2名が実行委員として活動しています。

(3) サイトコンテンツの定期更新

各セクションの担当者が本委員も兼任していることから、「研究会・部会の開催情報」をはじめ、多くのサイトコンテンツが、以前よりもスムーズかつ頻繁に更新されるようになりました。また本委員会独自の編集記事である「Special」も、2018PCカンファレンス直後に「受賞者喜びの声」を掲載し、PCカンファレンスが誇る独自の伝統「イブニングセッション」の魅力をCIEC内外に発信すべく「2018PCCイブニングセッション報告」10本を公開しました。そして新体制発足にあたり、2018年10月に「会長メッセージ」を公開し、2019年5月には若林新会長のイニシアティブにより、CIEC会員を中心にユニークな研究や実践に取り組む方々を会長自らがインタビューする新連載企画「会長インタビュー」をスタートしました。

委員会の会合は、以下の2回開催しました。

2018年度第1回広報・ウェブ委員会

日時：2018年10月21日（日）10:00-12:00
 会場：大学生協杉並会館ミーティングルーム2
 議題 1. 2018年度からの当委員会の組織の確認
 2. 2017年度までの当委員会の活動の振り返りと共有
 3. 2018年度からの活動方針の決定

2018年度第2回広報・ウェブ委員会

日時：2019年6月16日（日）10:30-12:30
 会場：大学生協杉並会館ミーティングルーム2
 議題 1. サイトコンテンツの見直しについて
 2. 会長インタビューの今後の収録・編集予定について
 3. 学会案内リーフレットの刷新について
 4. 2019年度の活動方針の確認 他

2. 2019年度活動方針

2019年度的主要な活動計画は以下の3点です。

(1) 会長インタビューの重視

新連載「会長インタビュー」をCIECサイトのメインコンテンツに位置づけます。現会員がCIECに誇りを持ち、その内容に惹かれて入会者が増加するように、強力なラインナップを維持し、編集に注力します。

(2) 学会案内リーフレットの刷新

デザイン性に優れ、CIECの魅力をより端的に伝えるリーフレットを作成します。QRコード等でCIECサイトや公式SNSと連携を図るとともに、配布場所・方法も戦略的に考案し、新入会員の増加を支援します。

(3) 公式SNSの運用強化

CIECの独自性に特化した情報提供を意識します。「会長インタビュー」のシェアやPCカンファレンス時のきめ細やかな情報提供等を通じて、公式SNSアカウントの認知度を高め、フォロー数を増やします。

国際活動委員会**1.2018年度活動報告**

2018年度活動方針に基づき実施した研究会・海外視察の企画等の概要を、次に記します。

(1) 海外（アメリカ）視察・交流企画参加募集とその実施

国際活動委員会委員の方々へこの企画への参加者を募集し、次の訪問日程で視察交流を実施しました。以下、その概要を記します。

視察目的

米国ノースカロライナ州ダーラムにある名門大学であり、これまでにノーベル賞受賞者11名の輩出、世界大学ランキング21位、全米総合ランキング7位（ともに2018年）のDuke大学を訪問し、教育に先進的にICTが果たしている役割を視察し、参加者およびCIEC会員の今後の研究活動に広く還元することを目的とする。

Duke大学は、2004年に世界で初めて新入生全員にiPodを無料配布した事で知られ、当時モバイル型の音楽プレーヤーとの認識でしかなかった機器を先駆的に教育に取り入れるなど、教育に積極的にICTを用いる実績を数多く有している。これまで大学内で教育を支えるテクノロジーの中心的役割を果たしていたCIT（Center for Instructional Technology）が、一昨年からは、Learning Innovationという機関になり、今回の視察はLearning Innovationが中心となる。

Learning Innovationでは、「Our mission is to help Duke students learn more, and to enable more people to learn from Duke」を目的として掲げており、最新のオンライン教育のシステムとその運用なども興味深いところである。

なお、Duke大学の外国語学部の教員である遠藤仁美先生は2011年の視察時にも協力いただいたが今回も全面的な協力を頂く。

訪問日程：2019年3月8日（金）～12日（火）、参加者数：4人

訪問概要

1日目：遠藤先生によるDuke大学の概要及び教育環境についての概説、交流

2日目：Duke大学内施設見学およびDuke大学におけるICTを活用した教育環境についてのセミナーおよび交流

3日目：Duke大学外国語学部におけるICTを活用した日本語教育の実際についてのセミナーおよび交流

なお、詳細はCIEC会誌『コンピュータ & エデュケーション』（Vol.46（2019）pp.2-3に掲載される『米国Duke大学視察Ⅱ -2011年訪問から8年を経て-』をご覧ください。

2.2019年度活動方針

2019年度も昨年度の活動方針を引き継ぎ、次の方針に基づく活動を行います。

- (1) CIECの目指す活動にかなう国際交流シンポジウムや研究会の開催に向けた取組活動
- (2) 日本における次世代のICTを活用した教育を構築することを目的とした、諸外国における教育動向の情報収集および調査研究
- (3) 会員の海外における情報収集の機会を支援するための支援環境構築に向けた立案企画
- (4) その他、本委員会の目標を達成するための事業の推進

具体的には、2019PCカンファレンスにおいて次の「シンポジウム」を企画し開催する予定です。

シンポジウム 2

開催日時：8月6日（火）15時45分～17時30分、

会場：4F Studio

タイトル：「学生の質の高い学びを支援する教育の近未来」

趣 旨：学生の学び方の変革が問われている。ICTの活用のしかたを自ら考える、集いあってプロジェクトを起こすなど、学生が自発的に自らの学びを深めていけるようなラーニングコミュニティ等の教育環境を提供している国内外の先進的な実践例を紹介し、これからの教育や学習支援の在り方について議論する。

委員会担当者名：興治文子

パネリスト：遠藤仁美（Duke大学）

大鹿智基（早稲田大学）

千葉美保子（甲南大学）

梅津春菜（甲南大学）

司会：橋孝博（早稲田大学高等学院／国際活動委員会）

記録：森 夏節（酪農学園大学／国際活動委員会）

研究委員会

1. 2018年度活動報告

- (1) 今年度企画された CIEC 研究会（第 117 回～第 120 回）について、企画・運営計画や実施状況などについて確認し、Web や ML にて告知をおこないました。
- (2) 「CIEC 春季研究会 2019」を開催し「CIEC 研究会報告集 Vol. 10」（査読付き）を刊行しました。詳細は以下のとおりです。

CIEC 春季研究会 2019

日時：2019年3月24日（日）10：00～16：30

会場：東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京（参加者数 50名）

概要：本研究会は、会員の研究成果発表・情報交換の機会を増やし会員相互の交流促進および研鑽に資することを目的として研究委員会が企画・主催として毎年実施しており、今年で10回目の開催となりました。積極的な議論・意見交換を促す若林会長の開会挨拶から始まり、夕刻の研究会終了時まで活気溢れる発表・質疑応答が繰り広げられ、本研究会のコンセプトである「ブラッシュアップのための発表会」に相応しい内容・雰囲気といえるものでした。

本研究会で発表された論文は、事前に査読を経て「CIEC 研究会報告集 vol. 10」への掲載が決定したものです。17編の投稿があり、査読の結果、実践論文2編、萌芽論文9編、研究速報3編、資料2編、計16編が採録されました。

カテゴリー別の発表題目（著者）は、下記のとおりです。

<実践論文>

- ・児童の読み書きの困難さに応じた ICT の活用 - 学級内 SNS、読み上げアプリ、学習者用デジタル教科書を例として - , 東京学芸大学附属小金井小学校 鈴木 秀樹・佐藤 牧子
- ・色カードの画像認識によるグループ集計機能の開発と改良, 金沢工業大学 福澤 力也・近藤 崇祥・鎌田 洋

<萌芽論文>

- ・PCCS を用いた洋服の配色技法学習システム, 金沢工業大学 山下 祐太郎・大西 花奈・鎌田 洋
- ・幼児教育保育専攻における ICT を利用した教育最前線 - 操作教育だけではない幼児教育保育への ICT 活用方法教育の必要性 - , 湊川短期大学 小野 功一郎
- ・360 度 VR 動画を用いた避難経路訓練アプリの開発, 獨協大学 李 凱
- ・錯視に関する学習システムの開発, 金沢工業大学 坪田 将輝・峠 大生・鎌田 洋
- ・Web ページの色彩デザインと CSS 学習システム, 金沢工業大学 谷 拓実・永井 馨一・鎌田 洋
- ・プログラミングの学習システム, 金沢工業大学 井坂 雄佑・桂川 大輝・青木 拓也・仁多見 光・鎌田 洋
- ・動画画像色彩学習システムの開発と評価, 金沢工業大学 寺松 誠悟・長坂 哲・長谷川 凌一・鎌田 洋
- ・情報社会における知的財産学習の適時性に関する探索的研究 - 「学習者ニーズ」に着目して - , 広島修道大学 阿濱 志保里
- ・既存教科学習とプログラミング教育の統合アプローチ - 情報学と言語学の関連性を背景とした指導素材の新提案 - , 室蘭工業大学 小野 真嗣 / 北海道大学 田邊 鉄 / 千歳科学技術大学 曾我 聡起 / 国立特別支援教育総合研究所 新谷 洋介 / 苫小牧工業高等専門学校 三河 佳紀

<研究速報>

- ・Google Classroom の効果と利用上の要点 - 立命館大学理工学部環境都市工学科の3種の授業実践より - , 立命館大学 笹谷 康之
- ・ヘロン数と関係する話題 - 理論と計算例 - , 大分大学大学院 新庄 慶基
- ・講義型授業での学習管理システムの効果的活用, 北陸大学 鈴木 大助

<資料>

- ・クラウドを活用した手書きレポート格納返却システムの問題点とその改善について, 島根大学 松本 多恵
- ・保育場面における ICT 機器の利用に対する保育者の意識 - 紙絵本とデジタル絵本の比較 - , 新潟青陵大学 本間 優子 / 敬愛大学 阿部 学

2. 2019年度活動方針

- (1) 春季研究会の拡充を図り、以下について検討します。
 - ・従来の査読付き研究報告集の刊行・口頭発表に加え、査読無しポスター発表枠の新設
 - ・講演会、情報交換会など、新企画の提案

- ・運営組織（委員会）と予算の拡充
 - ・研究報告集（査読付き）の電子化とDOI取得
- (2) CIECで実施される研究会の実施計画案などを確認・承認し、WebやMLで告知します。
- (3) 広報・ウェブ委員会と連携し、研究会開催・募集案内の周知拡大を図ります。

小中高部会

1. 2018年度活動報告

- (1) 2018PCカンファレンス（熊本大学）において、プレカンファレンスの運営に協力
テーマ：「小中高の授業におけるタブレット活用」

- (2) 研究会（小中高部会主催1回，協力1回実施）

- ・CIEC第117回研究会 協力

タイトル 学びの空間としてのラーニングコモンズ
開催日 2019年1月05日(土) 13:00 - 17:00
会場 早稲田大学 中央図書館 1階 会議室
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

- ・CIEC第118回研究会

タイトル プログラミング的思考を教科にどう落とし込むか
～授業に活かすプログラミング脳を育むロボットプログラミング～
開催日 2019年6月09日(日) 10:30 - 12:30
会場 甲南大学 岡本キャンパス 5号館 2階 523教室
〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本 8丁目 9-1

- (3) その他

- ・PCカンファレンス北海道2018 協力

教育ワールドカフェの運営を担当

テーマ：「プログラミング教育必修化がもたらす未来」

開催日 2018年11/3(土)～4(日)
会場 北翔大学「北方圏学術情報センターPORTO」
住所 〒064-0801 札幌市中央区南1条西22丁目1番1号

2. 2019年度活動方針

- ・新学習指導要領の展開

小学校から始まるプログラミング的思考を育む教育と情報科で展開される新しいカリキュラムに関して実践的研究を共有する。さらに、学習者の自発的な学びを誘発する授業方法等について研究し、学習者の探求的な活動をICTがどのように支援できるか検討する。

- ・ポスト・プログラミング教育

小中高部会では、2016年度よりコンピューショナル・シンキング（CT）からのアプローチでプログラミング的思考にフォーカスしてきた。発達段階を考慮したCTとはどのようなものかを検討し、プログラミング的思考を育む授業をCTの視点から研究する。

- ・学びのデータとその分析

e-ポートフォリオの活用が中等教育においても進みつつある。多くの場合は、学習履歴や活動履歴などの学習者の活動ログが企業のデータベースに蓄積されている。それらのデータを教員が、分析可能か、あるいは、分析されたものの教員へのフィードバックはどのような形でなされるのか、未知の部分が多い。学習分析や学習方略の視点から、e-ポートフォリオの活用を捉え、ひとり一人に適した学習をどのように教室空間に築き、読解力など現在問題になっている力を育むかを検討する。

具体的な活動

- (1) 研究会の実施（1件確定。他の内容は未定。東京だけでなく他道府県でも3回開催を検討）

- ・CIEC第120回研究会

タイトル：総合的な探究活動をどう展開するか～Matlabを使った実験・分析・探究～

開催日：2019年7月21日（日）

会場：Mathworks 東京オフィス

〒107-0052 東京都港区赤坂4-15-1 赤坂ガーデンシティ 7階

(2) 2019PCカンファレンス（甲南大学）への参加・協力

プレカンファレンスを担当

タイトル：プログラミング教育必修化のグランドデザイン

－小学校から中高大へバトンをどう渡すか－

開催日：2019年8月6日（火）

会場：甲南大学 岡本キャンパス

〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9-1

(3) 北海道地区において、PCカンファレンス北海道などに参加・協力・学習会の実施

(4) 世話人会の実施（年3回、関東・関西で開催予定）

(5) 国際活動委員会との連携

(6) 研究委員会との連携

(7) オープンエデュケーション部会との連携

(8) プロジェクトへの協力

外国語教育研究部会

休止中

生協職員部会

1. 2018年度活動報告

(1) 研究会／企画

8月/PCカンファレンスセミナー1,3

テーマ「デジタル教科書「当たり前」時代の到来を前に」

セミナー1登壇者

中野淳 日経BP社 PCメディア編集部長/教育とICT Online編集長

松下毅彦 広島大学医学部附属医学教育センター

大賀圭・保科辰憲・立古玲加 首都大学東京学生

権藤昌之 九州工業大学

セミナー3登壇者

水越康介 首都大学東京経済経営学部

小田部荘司 九州工業大学大学院情報工学研究院

セミナー3パネルコーディネーター

中野淳 同上

セミナー1,3進行

内赤尊記 千葉大学生協 専務理事

学校教育法改正を契機に加速するであろう電子教科書の普及、ますます進展するであろう教科書・教材電子化の動き、また著作権法改正に伴って変化が予測されるデジタルコンテンツの教育場面での利活用についてなど、この間の動きを俯瞰するとともに、大学における教科書デジタル化の先行事例を教員・学生双方から報告いただいた。

特に広島大学医学部における教育改革に教材をデジタル化し教員それぞれがテーラーメイドな学習環境を構築できる環境を整備することが有効であった事例、デジタル化した教科書の閲覧ログから明らかになった学生の学習実態、学生から見たデジタル教材・教科書の使い勝手の良し悪しなど、先行事例から多くの話題を提供いただいて議論を深めることができた。

(2) 世話人会（関東世話人会計2回実施）

2018年7月（関東・杉並） PCカンファレンス2018 セミナー打合せ

2018年2月（関東・杉並） PCカンファレンス2018 セミナー打合せ

2019年5月（関東・杉並） PCカンファレンス2019 セミナー打合せ

2. 2019年度活動方針

1) 大学入試改革や電子教科書の普及・教材・教科書のデジタル化などによる学習環境の変容と学習者の変化を捉え、今後どのような学修支援を目指していくべきか研究する。

- 2) 学生同士の学び合いや経験を継承する場としてのパソコン講座の研究、現状と変化について継続的調査を行う。
- 3) 上記、1、2の活動を通じて生協職員のCIEC会員の増加につとめる。

オープン・エデュケーション研究部会

1. 2018年度活動報告

オープン・エデュケーションは高等教育機関を中心に発展し、代表的なものとしてはMOOCsや各大学が開しているOCW（Open Course Ware）が有名であるが、CIECでもここ数年、オープン・エデュケーションに関するグローバル活動の一環としてMELROTプロジェクトに参画してきました。本部会ではワークショップ・研究会等を通じて会員にオープン・エデュケーションに関する情報等を提供・共有していくことを目的に活動しました。

(1) 研究会の実施

○2018PCカンファレンスでの「シンポジウム」と「セミナー」の実施

・シンポジウム：

「オープン・エデュケーションの挑戦—MERLOTとの協働そしてCIEC活動のさらなる活性化へ—」
パネリスト

Gerard L. Hanley (Executive Director, MERLOT CSU Office of the Chancellor)

重田勝介（北海道大学情報基盤センター）

尾崎拓郎（大阪教育大学情報処理センター）

武沢護（早稲田大学大学院／高等学院）

コーディネータ

吉田晴世（大阪教育大学）

・セミナー

「MERLOTアンバサダーになろう —OERをいかに評価するのか—」

講師

Gerard L. Hanley (Executive Director, MERLOT CSU Office of the Chancellor)

コーディネータ

吉田晴世（大阪教育大学）

武沢護（早稲田大学大学院／高等学院）

○CIEC第117回研究会

テーマ「学びの場としてのラーニングコモンズ」

日時：2019年1月5日（土）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス

内容：講演「ラーニングコモンズとコンソーシアムを中心として」

深澤良彰氏（早稲田大学図書館長・基幹理工学部教授）

講演「これからの大学図書館の在り方」

中山貴弘氏（大阪教育大学 学術情報課長）、尾崎拓郎氏（大阪教育大学 情報処理センター）

早稲田大学中央図書館 ラーニングコモンズ見学

質疑応答

○CIEC第119回研究会

テーマ「学びの場としてのラーニングコモンズ II」

—図書館の新たな役割とオープン・エデュケーション—

日時：2019年6月29日（土）

会場：札幌学院大学

内容：ラーニングコモンズの現状と課題（早稲田大学図書館の取組）

武沢護氏（早稲田大学大学院／高等学院）

中学高校におけるラーニングコモンズの情報環境整備

横濱友一氏（東京・聖徳学園中学高等学校）

北星学園大学ラーニングコモンズの取組の現状と今後の課題

永井暁行氏（北星学園大学）

(2) オープンエデュケーションリソース（OER）の研究開発

カリフォルニア州立大学（CSU）が中心となり高等教育における学習・教育の質向上のためのオンライン教材の集約・開発を目的としたMERLOTをプラットフォームとして、「ICTの教育的な活用」「新しい学びの創造」という視点のもと、校種や職種を越えたOERに関する研究を行いました。このことを踏まえ、

次年度は実践的なワークショップを実施する予定です。

(3) 広報活動

広報・ウェブ委員会の協力を得てCIECホームページを積極的に活用し、情報発信を行いました。

2. 2019年度活動方針

「部会の組織化とその活動の活発化」

(1) 2019PCカンファレンスでの「セミナー」の実施

テーマ「学びの新たな空間—ラーニングコモンズの設計と運営—」

パネリスト

尾崎拓郎氏（大阪教育大学）、庭井史絵氏（青山学院大学）、横濱友一氏（聖徳学園中学高等学校）

コーディネータ

武沢護氏（早稲田大学大学院/高等学院）

(2) 研究会の実施

○北米におけるオープン・エデュケーションの取組（2019年11月頃）

○大学入試選抜改革におけるe-Portfolioの取組に関する研究会（2020年1月頃）

(3) OER作成ワークショップの企画・運営

MERLOT入門講座（2020年6月頃）

(4) 広報活動

広報・ウェブ委員会の協力を得てCIECホームページを積極的に活用し、情報発信を行います。

(5) その他

部会の各メンバーが海外視察など積極的な情報収集や視察を行い、情報交換します。

北海道支部

1. 2018年度活動報告

(1) PCカンファレンス北海道2018の開催

開催日：2018年11月3日（土）、4日（日）

会場：北翔大学 北方圏学術情報センター PORTO（実行委員長 高瀬敏樹）

主催：PCカンファレンス北海道2018実行委員会

共催：CIEC（コンピュータ利用教育学会）、全国大学生協連合会北海道ブロック、北翔大学

後援：北海道教育委員会、札幌市教育委員会

開催テーマ：プログラミング教育必修化がもたらす未来

参加者数：約80名

概要：特別講演では、「新学習指導要領で育む情報活用能力」と題し、鹿野利春氏（国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官・（併）文部科学省生涯学習政策局情報教育課情報教育振興室教科調査官・文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官）よりご講演いただきました。今回初めての試みとして「プログラミング教育必修化がもたらす未来」をテーマに、教育ワールド・カフェを開催しました。運営は小中高部会が行い、小中高大の教員、大学生、大学院生、ソフトウェア開発者等、多数の参加者（30名以上）で大いに盛り上がりました。

分科会では、道外（10件）を含め19件の発表がありました。一般論文、実践論文、萌芽論文、研究速報、実践報告、北海道の地域特性を生かした実践報告等多岐に渡っており、有意義な研究交流の場となりました。学生プレゼンテーションスキル賞優秀賞受賞者は以下の通りです。

伊藤優（千歳科学技術大学 理工学部 情報システム工学科）「小学校のプログラミング教育必修化における教育の手法に関する報告」

佐々木優弥（北見工業大学院 情報システム工学専攻）「北見工業大学において好まれるゲームジャンルとそのプレイ時間がもたらす単位修得への影響の解析と学習傾向の分析」

ITフェア（企業展示）には8社の出展があり、一般市民の参加も見られました。

(2) 大学入学生を対象にしたコンピュータに関する調査

北海道内8大学、1000名超のデータを継続的に収集しフィードバックを行っており、情報教育担当者の共通基盤として有効活動されています。

2. 2019年度活動方針

(1) PCカンファレンス北海道2019の開催

10月26日（土）に、酪農学園大学を会場に開催することが決定しています。

(2) 支部研究会の開催

時期、会場は未定ですが、研究会の開催を予定しています。

(3) 学校の玉手箱シリーズの開催

学会員以外も気軽に参加しやすい会場での開催を予定しています。

(4) 北海道における情報教育に関する調査の実施

引き続き北海道の大学1年生を対象にした調査を実施します。

九州支部

1. 2018年度活動報告

2018年度は、全国版PCカンファレンスが熊本大学で開催（8月24～26日）されました。九州支部では、九州の大学で開催される全国版PCCは九州PCCを兼ねるものとしていますが、今年度は特に、九州全体で盛り上げようという気持ちで取り組まれたPCCでした。まず初日のイブニングセッションでは、九州支部情報生活サポート研究会が中心となって「大学生協PC講座のスタッフの成長と育成を考える」、九州支部会員と九州事業連合の共催で「大学生協の電子書籍ビューワを活用し新しい教育を創造するには」の2つの交流の場を提供し、活発な意見交換が行われました。また、PCCは大学生協に支えられている部分が多いですが、二日目の懇親会の場で、九州の各大学生協から応援に馳せ参じた生協職員が紹介されました。PCCは生協職員にとっても学びと成長の場であり、開催校としての貴重な経験を地域全体で共有しようという九州の取り組みに対して、他地域の生協職員から賞賛の声が聞かれました。PCCが大学生協の「CIEC的活性化」の場であることが再認識されました。

2. 2018年度活動方針

九州ではPCカンファレンスを、ICT教育や情報化社会について学ぶ場としてだけでなく、語学教育、協同組合活動、平和、地域の学校教育など、さまざまな学びの場と捉えています。2019年度は、佐賀大学での開催を予定しています。佐賀大学には、クリエイティブ・ラーニングセンターでの長年に渡る先進的活動の実績があり、九州PCCで多くの報告がされてきましたが、今回はその九州支部会員を中心として大学内外との繋がりを強める機会になることが期待されています。

情報生活サポート研究会のICTを活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとした研究活動では、教員、生協職員、学生の協同の中での大学生協の役割を確かなものとする活動を推進します。その他の支部活動についても、九州PCカンファレンスなどの会員交流機会を活かして模索することを継続します。

2018年7月

- 01日(日) 2018年度一般社団法人COEC定時社員総会 開催公示
21日(土) 監事会(大学生協杉並会館)

2018年8月

- 23日(木) PCC第4回実行委員会(熊本大学黒髪キャンパス)
2017年度第4回理事会(熊本大学黒髪キャンパス)
24日(金) 2018PCカンファレンス(熊本大学黒髪キャンパス)
テーマ「ひらめきときめきはばたき」
会誌編集委員会
25日(土) 2018PCカンファレンス(熊本大学黒髪キャンパス)
2018年度一般社団法人CIEC定時社員総会(熊本大学黒髪キャンパス)
2018年度第1回理事会(熊本大学黒髪キャンパス)
26日(日) 2018PCカンファレンス(熊本大学黒髪キャンパス)

2018年9月

- 30日(日) 3役会議(台風のため中止)

2018年10月

- 21日(日) 2018年度第2回理事会(大学生協杉並会館)
広報・WEB委員会(大学生協杉並会館)
28日(日) 会誌編集委員会(大学生協杉並会館)

2018年11月

- 03日(土)-04日(日)
PCカンファレンス北海道2018(北翔大学)

2018年12月

- 01日(土) 『コンピューター&エデュケーションVol.45』発行
15日(土) 研究委員会(大学生協杉並会館)
22日(土) 3役会議
2019PCカンファレンス第1回実行委員会(甲南大学)

2019年01月

- 05日(土) CIEC第117回研究会(小中高部会、オープン・エデュケーション研究部会企画)
テーマ「学びの空間としてのラーニングコモンズ」(早稲田大学)
31日(木) 2019PCカンファレンスWEBサイトオープン
2019PCカンファレンスイブニングセッション受付開始(受付締切4月15日)
2019PCカンファレンス団体会員発表セッション受付開始(受付締切5月15日)
2019PCカンファレンス教育・ITフェア受付開始(受付締切5月31日)

2019年02月

- 20日(水) 2019PCカンファレンス 分科会発表受付開始(受付締切5月15日)

2019年03月

- 11日(月) 会誌インタビュー(吉藤健太郎氏)
15日(金) 2019PCカンファレンス第2回実行委員会(甲南大学)
23日(土) 2018年度第3回CIEC理事会(午前:三役会議)(大学生協杉並会館)
24日(日) CIEC春期研究会2019(東工大キャンパスイノベーションセンター)
研究委員会(東工大キャンパスイノベーションセンター)

2019年04月

- 01日(日) CIEC 学会賞公募開始(4月30日締切)
07日(日) 会誌編集委員会(大学生協杉並会館)
09日(火) 会長インタビュー(熊坂 賢次氏)

2019年05月

- 14日(火) 会長インタビュー(松下 慶太氏)
26日(日) 2019PC カンファレンス 分科会時間割編成会議(大学生協杉並会館)
24日(金) 2019PC カンファレンス ポスター・リーフレット発行

2019年06月

- 01日(金) 『コンピューター&エデュケーション Vol.46』発行
2019PC カンファレンス受付開始
9日(日) CIEC 第118回研究会(小中高部会主催)(甲南大学)
テーマ「プログラミング的思考を教科にどう落とし込むか」
～授業に活かすプログラミング脳を育むロボットプログラミング～
15日(土) 会長インタビュー(長岡 健氏)
16日(日) 2018年度第4回 CIEC 理事会(午前:三役会議)(大学生協杉並会館)
広報・WEB委員会(大学生協杉並会館)
29日(土) CIEC 第119回研究会(オープン・エデュケーション研究部会主催)
テーマ「学びの空間としてのラーニングコモンズ II」
-図書館の新たな役割とオープン・エデュケーション-

以上